

光のコントロールでサカキの病害を防ぐ

～ サカキなど枝物栽培の重要病害を防除する～

研究の背景・目的

島根県では、シキミ、サカキなどの枝物がスギ・ヒノキ林や天然林の林間を利用して栽培され、県内外の市場に出荷されています。しかし、高収益・供給不足でありながら、栽培技術が未確立で、生産額のアップにはまだまだ課題が多いです。この研究では、収穫に大きな影響を及ぼす2つの病害（輪紋葉枯病・枝枯病）について研究し、生産性の向上を目指します。



写真1 スギ林内での栽培の様子。



写真2 輪紋葉枯病。落葉が激しい。



写真3 枝枯病。病原菌など不明。

研究方法

1. 枝枯病(新病害)の基礎研究

病原菌・伝染様式などを解明します。

2. 最適な日射条件は？

温室内で日射量を変化させて、サカキの生育と病害発生との関係を調査して、収穫量が最大となる日射量を把握します。

これまでの研究で輪紋葉枯病は日向で、枝枯病は日陰で被害の多いことが分かっています。

3. 現地で応用する！

生産組合の栽培園で、室内試験でのデータをもとに、現地栽培園での上層木・周辺木の密度調整(抜き切り)を行い、その効果を調査・検討します。

4. 生産・販路拡大に向けた経営支援を行います。

5. 林間で栽培できる新たな作物がないか調査します。

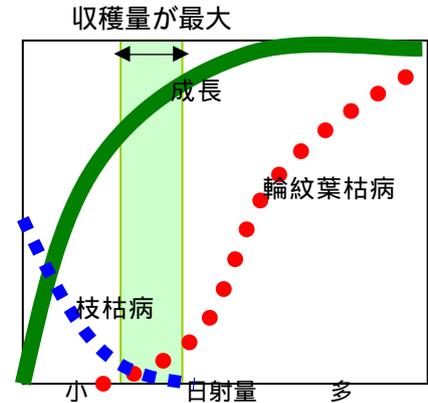


図 成長と病害による損失量の模式図

研究成果の活用場面・その他

生産額のアップ

島根県の栽培による生産額は約35百万円/年で、病害損失量は約4割です。本研究による栽培技術が13haで普及し、病害損失量を数年後に1割程度に抑えることができると、生産額は50百万円/年に達し、15百万円/年の増加が期待できます。

低コストで、環境に配慮した生産が可能に！

この技術により農薬散布回数を現在の6回/年から1回に減らすことができます。農薬のコストを県全体で約3百万円/年、削減でき、また環境に配慮した生産が可能となります。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ 森林保護育成グループ

担当研究者 陶山 大志(すやま ひろし)

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3823

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 林間を活用した有望農林作物の栽培技術(病害虫防除)の確立(研究期間: 20~22)